

〔発言者〕 下平作江

〔発言年月日〕 1993 年

〔生年、被爆地、職業など〕 長崎で被爆。

〔内容〕

やはり体験した人の言葉というのは、心の底から出てくるものですから人を動かす力があります。(中略)Wさんの体験からの証言がどんなに大変な力をもっているか、私の経験からでもわかります。言葉の一つ一つはこれからも多くの人の心を動かして、二度と原爆を許さないという気持を起こさせるでしょう。

戦争だったからしかたがないというのが、いま滲透しつつありますね。戦争だからといって、決して許してはならないんだ、受忍してはいけないんだということを、次の世代にしっかり伝えなければならない。

去年の六月、アメリカのフロリダに被爆の実相を訴えに行ったんですが、そこに展示してあるのは全部建物の写真です。生徒たちが指さして、人間は誰も死んでいないじゃないかと言うのです。だからそうじゃないんだ、たくさんの人が死んだんだ、建物がこれだけ破壊されているんだから、人間はもっと被害を受けているんだ、ということをきちんと知らせる必要があります。

〔注〕

長年にわたり被爆体験を語り続けてきた下平作江さんの言葉。人間の被害を中心とした証言を次世代に伝えることの重要性を、体験を語り続けてきた経験から訴える言葉である。

(『証言 1993——ヒロシマ・ナガサキの声』長崎の証言の会編、1993 所収)